大正十年四月二十二日第三種郵便物認可　昭和四年十二月四日　〔水曜日〕　磐城新聞　第二千七百號　(一)

(三日夕刊)

磐城新聞

休刊 大祭日の翌日　定價 壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵稅十錢　廣告料 一行五十錢(指定五割增)
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六番

北海道秋風抄(四)

福田將夫

雪が降ると籠る杣たちは、ヤトベの、干したもの大根積、味噌じる、簡素極る生活を送りながら、懸命に働きつづけるのである。今杣夫たちは下山の留守で、その後へ人夫を宿して工事を進めてゐるのだそうである！。

人夫も杣夫らも同一飯な生活である。

こんな山の生活味たつぷりな話を星野は話して呉れた。私は自己の生活に對しある收穫を得たやうな明るい氣分になつた。

私はこの部落に逗留の心持がしらず〜に感化され出たのか湧いて來た。

——山生活のどらく——

私は人夫達と一緒に寢起して三四日過して了つた。二日續いて降つた時雨もからりと晴れた小春日和に朝から辨當を腰につけスケツチ箱を背にして、秋濕の落葉をふみしめて、裏山の方へ寫生に出掛ける。

途中で人夫達に會ふ、「に坊ちやん、寫眞映しにですかい」とにこして訊く。

「えゝ、油畫を書きに出掛けるんです」

私が丁度寫眞屋のやうな物を持つてゐるから、スケツチ箱、畫架、三脚、これらで、往々にして誤解される事がある。

私のことを人夫達は「お坊ちやん」と呼ぶ、人夫に依つて「志村のお坊ちやん」とか、「畫坊さん」なんて呼ぶ奴もゐる。

私の悲しい境涯を星野からきいたらしい徴候がある。んな事を考へてとり切株に腰を下して、紆梦することがある。

そして朧月になげく事もある寂しさである。

明日歸ろうとした夜、山の端から登る月に向ひながら放尿してゐると、崖近くにある人夫小屋の小窓の隙間から、流行ジャズ、緊縮小唄のメロデーが流れて星空にむせぶ。

此の山奥に、驚くべしビクターの素敵な蓄音機が備へられてゐるのである。

「人夫達が金を出して買つたそうであるレコードはむろん、安來節、浪花節、松前追分などで大部分を占めてゐる。

靜かです、谷間で水の湧く音がきこえる。

凝つとききすまして居ると、人夫の一人の龜吉と云ふ者が、私の送別會を催るから云つて呼びに來た。

一番大きな小屋の荒莚にさゝやかな料理が並せられて、その周りに重立つた人夫頭が座つてゐる、工事も後三日で竣工といふので前祝と私の送別會を兼ねたそうである。

唄ふ俗歌も絶れた頃、近し所に熊の氣配がすると言つて、人夫が二人ばかり村田銃を持つて出て行つた。

此の熊の奴は驚くことが多々ある、山ブドウの樹つるの上でバリ〜ムシャ〜と音をむしり取つて喰べてゐる。

それとも知らずに、「おゝめらか」などと聲をかける熊であるから驚いて命から〜逃げ出すことがある。

喰べたブドウのまざつた太い糞が山の所々にある。四季において人蓄に害をする。畑を荒し、牧場の山羊などを喰べて平然と引き上げる。冬に雪の洞穴を作り穴籠りをする。

熊に付いて色々な珍談があるが後日記すことにする。

次の朝はひどく寒かつた、多くさんの人夫達に送られて麓まで來た「星野君達者で」「たゝ君も壯健でふんとうし給ひ」と握手し私達二人の眸に泪が光つてゐる。親切な人夫達に別れを惜しらん下で峠を下る、見送つてゐる彼等の姿が乾乾と發ねてゐる旭岳に眞白な雪がたほひ、朝陽に一會の美を添えて見える。

「一九二九、一〇、二二稿」

今日の暦　新暦十二月四日　舊暦十一月四日

▲一白の人　鉞も研けで針となる何事も辛抱が第一なり▲二黑の人　平和なる日合に存外事の運ばざる日あせるな▲三碧の人　突飛な事に手を出して大失敗し易き注意▲四綠の人　午前は大丈夫なれど午後は萬事手控へにすべし▲五黃の人　我意に募りて成るに近き事を破ることあり▲六白の人　道は遠くも荷は重くとも努むれば必ず達す▲七赤の人　悦びあり氣ゆるみせぬやう注意して働くべし▲八白の人　秘密外に漏れて不利を招く和合が專一の日▲九紫の人　初めは吉終りは凶遠くに行けず房りに災あるべし

講談　幕末奇傑 高山彥九郎 (12)

中西洋々作　布施長春畫

佐吉一家(五)

「たゝ、さうだつたか」

彥九郎は、父がありし日寵を垂れた忠僕を前にして今更に強くうたれるものがありました。

「父上が、御在世の頃、共に狩獵にいつたといふのはでは、やはりそなたのことであつたか」

「へね、さうでごせゐますども。大旦那樣のお伴をして、いつも山にいつた佐吉は、この老ひぼれでござれます」

佐吉は、今は、自分の病氣も忘れたように亡き主人の遺兒をしげ〜と見守るのでした。

「まあ、それに、今は大旦那樣の御十年忌、みすぼらしい所乍ら、御佛さまも祀つてごせえます。とに角どうぞ、おあがり下さゐまし」

「では、御邪魔を致さうか！」

彥九郎は、そのまゝ、座敷に上ると、示された、佛に相對しました、それは、型ばかりの床の間に、一幅の掛圖がかけられてあるばかり、かすかにのぼる、香煙の間に幅面を見れば、古錦襴表裝の一幅、無落款はあるが、土佐風の繪、淡彩に楠公出陣の樣がかゝれてある、その筆觸、正に勁くかとばかり。

「はて、これは楠公御出陣の圖？」

拜し終つて、彥九郎は、佐吉の方に向き返りました

「これが、父上の佛とは受とれぬが……」

「へね、それには、色々と深い仔細がごせゐます」

佐吉は、新たな涙をもよほしながら。

「實は、わつしも大旦那樣一人に御奉公、御邸の方にはうかがつたことはごせえませんので、大旦那樣御他界の折ら、たほびらに御伺ひ申すこともお來ませんでした。

けれども大恩うけた大旦那樣、どうかして、春秋の祭りなりともたやしたくねえと、思ひたつて、御祭り申したのが「この一幅」

これは、大旦那樣直々の筆でごせゐます。

「なに、父上の筆と申すか」

彥九郎は、ぱづさうたたように問ひ返しました。

「へね、いつぞや、お酒の席で描かれたものぢやとか仰せられて、爺やに下さゐましたものでごせえます」

「ふゝむ」

それと知つて再び畫面に見入りながら、今は、亡き父に對する懷かしさ、親のしたしさが、急速に、彼の心の内にまして來ました。

——父が描かれた大楠公出陣の圖。

これは、とりも直さず、彥九郎自身の教訓ではあるまいか、父は、自分がまだ七つの幼少の頃にみまかられた、まだ、口に出して云ひだすには、餘りに幼すぎた彥九郎に、父は、千萬無量の思ひをこめてこの繪をものせられたのではあるまいか。

父の落款はないながらに筆觸の正に勁くばかりのこの一幅、は王政復古の大志にもゆる彼には、よき刺激でした。

それから、數々の懷舊談に、病める老佐吉も暫くは病氣を忘れ、師のもとに急ぐべき彥九郎も、しばしそれを忘れて、いぢらしい十三の少女お光が、やさしい心やりになる澁茶に喉をうるほしながら、いつまでも〜語りあつてをりました！

「たゝ、これは失念してをた！」

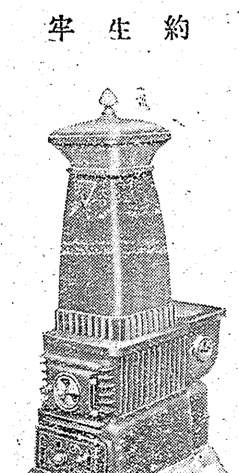
暫くして、彥九郎は、はつとして氣付いたように云ひました。

「佐吉殿は、病氣ぢつたのだな、體を樂になされ」

云ひながら、自ら手を添へてやりながら、やさしく床の中に横たはらせました……。

廣告

吉田眼科醫院

暖爐界之征服者
ネンシヨウストーブ
經濟的連續完全燃燒
消費節約
火防衛生
優美堅牢
簡便を欲せらるゝ御方は是非御試し下さい
御請求次第カタログ進呈

(久) 釜屋商店
電話九一三九番

▲伊關吳服店の
御得意樣慰安劇大會
△劇は御なじみの竹の子一行
△期日十二月一日より七日迄一週間
△時間は毎日午後五時花火合圖開場
△同店へ御入來の御客樣には
△特別無料券進呈仕ます
會場 聚樂館

毎度御引立にあづかり御禮申上ます
奥山の廉賣御賣出しが參りました。
安く、味のよい、台所には是非。
奥樣方のお嬉び。
◎廿八日より向五日間
十二月二日迄
平町長橋奥山醬油出張販賣店
四倉町本町元。金芳跡

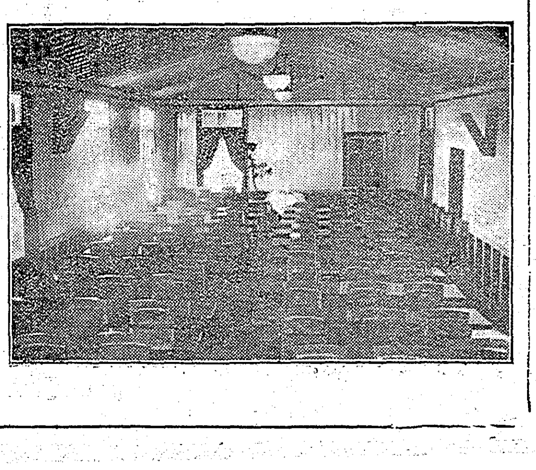
寒さの御用意
一 實用品の廉賣
日に增し寒くなつて參りました。寒さの御用意は「緊縮時代」に相應しい「實用品」……と決りました。弊店は「金解禁」を前に安價のどん底を仕入れ、皆樣に買つて戴く事にしました。どうぞ一度御覽下さい。そして御撰擇を願ひます
◎御祝儀一式　◎七五三祝着品々　◎銘仙類
着尺モスリン　◎友仙モスリン
◎ナフトール着尺新柄　◎ニコ〜新柄
龜田屋吳服店
平町三丁目　電話五七番

耳、鼻、咽喉科
合津醫院
平町仲田町七一(電話五五九)

夜間　診療
胃腸　內科　十二指腸虫病　專門　內科部
[illegible]　淋病　婦人病　皮膚病　專門　外科部
松村胃腸性病科醫院
(平南町電話一〇七番)

レコードハ此のマーク！を
HIS MASTER'S VOICE
TRADE-MARK REGISTERED
店員募集
肉聲のビクターレコード
販賣店 會田時計店
平町四丁目(電話三六三番)

外科一般(入院隨意)
內臟外科專門
花柳病科
平町六丁目(橋際)
木村外科醫院
電話三〇九

文化講演會
簡易講習會
協議會
諸陳列會
として皆樣の席場が出來ました自由に御利用願ます
皆樣の
(昌)ホール
平町 電話四三九番


特賣!!
たひら正宗　福島縣清酒品評會一等賞受領
花春　同　優等賞受領
醬油釀造元
鹽屋 山崎合名會社
電話一〇番

營業種目
內地材
材木各種、柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達
請負　其他
(百) 佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話三三五番

內科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平局五〇七番

入院隨意(自炊の便あり)
X光線科
外科專門
平南町
上田外科醫院
電話一二九

民政黨の猪狩千勝氏が 若松縣議を瀆職で告發
石城民政黨いよいよ泥仕合 裏には裏の魂膽

平町白銀町猪狩千勝氏は縣會議員、縣參事員若松美三氏を相手取り去る二十六日平檢事局に瀆職罪の告發書を提起した、告發の事由の大要を聽くと

若松美三氏は去る大正十二年赤井村長在任當時赤井村小玉川上流の水力發電所水利權につき小玉川電氣會社と福島炭礦が共願となり水利權獲得の運動中縣知事よりの諮問に對し若松氏は村長たる職權を惡用し故意に小玉川電氣會社の爲め有利なる答申書を作製して縣に提出し小玉川電氣會社に容易に水利權を得せしめ村長退職後小玉川電氣會社より數百圓の現金と十二圓五十錢拂込濟みの同會社株券三十株を收受したことは明かに瀆職である」と

云ふにあるらしい、而して平檢事局ではいやしくも現職縣會議員の事であり告發の裏面に何等か意味あるものと睨みをつけ福岡檢事正の指揮を仰ぎ愼重なる態度方針を以て臨むことゝなつたが平檢事局では近く若松縣議を召喚し一應の取調べをするものゝ樣に觀られてゐるが仄聞する所によれば小玉川電氣會社が比佐代議士を通じ若松縣議に對し三十株の株券を贈與して來た事はあるも本年春若松氏は右株券は會社に返還濟みとなつて居り現金數百圓收受云々も極めて根據薄弱なるものゝ樣に傳へられてゐる、其の裏面に必らず因つて來たる理由の潜在してゐることを想像せしむるに充分であるが石城民政黨は這般行はれた縣參問題につき若松野崎兩氏が爭奪の激戰を演じ決戰投票により遂ひに桂冠を得た若松氏に對し野崎氏一派のもの等は極端に若松氏の存在を快とせず氏の社會失脚を劃策してゐるかの如く傳へられてゐた折柄今回の告發事件は可成り重大な衝動を與へ結果を注目されてゐるが石城民政黨の內訌は遂ひに泥仕合となり紛爭は之れより愈々底止する所なきに至るであらうと觀られてゐる

縣參爭奪で敗けた 野崎派の奸計
時節殊に問題の 若松氏告發の裏

若松縣議を瀆職罪として告發した猪狩千勝氏は石城民政黨の闘士にして遊説部長の要職にあり殊・縣議野崎滿藏氏との私的關係は最も親密なものゝある關係上然かも黨の長老にして現職縣會議員の若松氏を相手に刑事問題の被告たらしめんとする今回の告發は

曹洞宗會議

四倉町海嶽寺住職花澤賢有師は來る十二月十日より十日間東京市芝區新堀町曹洞宗務院內に於て開かれる全國曹洞宗議員大會に出席のため九日出發する筈

相馬鄕友會
七日一の井で

石城郡在住相馬鄕友會並に馬城會平支部聯合總會は七日午後五時から平町田町驛前一の井に於て會員齋藤敏賀氏の町會議員並に松枝茂氏の學位授與祝賀を兼ねて開催する筈で會費二圓多數出席を歡迎すると

會社の誠意を認め 委員一行歸平
出來るだけ希望に添ふ 平町の電燈問題

平町の電燈値下げ問題につき伏見町長外委員七名（荻原、馬目武、千葉、花澤、馬目雅、柳下、綠川）は二日準急にて上京京橋八重洲ビル內の東部電力本社を訪問した所ろ橋本社長は郡山に歸省不在にて午前は西山常務、午後前島副社長に會見し先きに提出せる値下要求書に基き屢々穩健なる要求をなしたのに對し會社側では

「値下げを出來る事なら自發的に斷行するだけの誠意を持つてゐるが他の會社は一割を配當してゐるに當社は辛じて八分を配當してゐる實狀に鑑み殊に値下げをするとなれば獨り平町のみでなく他に及ぼす處多く此の點御諒承願ひたい、然し社長不在であり近く大体御趣旨に添ふ樣案を纒めて當方から出向き解決する」云々

等會社の誠意を認むべきものあり一行は即夜歸平したが同會社では電燈五十年記念の爲め一部左の如き自發的値下げ又は廢止を斷行し十二月一日より實施する樣平營業所に通知を發しておくと

摘要	從前	改正
休燈料	一五錢	一〇錢
取附料	六〇錢	全廢
電球交換		五錢値下げ

磐中磐女の入試に 改正される要點
校長の內申を參酌に止め 口頭試問も平易

磐中、磐女の入學試驗問題につき前回執行の實際に鑑み考慮を要すべきもの多々あり學校當局と縣との間に屢々研究されて來たが一般の意見とされてゐる改正方針によれば、小學校長の內申は絕對としてゐたがこれを參酌の程度にあらため、口頭試問等についても餘り難問を出さぬことの妥當なるものあり校長會議を開くかどうか未だ決定しないが何れ私設の中等學校長會議が明年一月下旬開催されるので、本問題につき協議される筈で小學校長の內申に對する參酌程度は結局當該校長に一任する外あるまいと

一、入學者は人物考査並に身體檢査を行ひ且小學校長の報告を參酌してこれを考査選拔すること

一、小學校長の報告に係る各項のみに基きて入學を拒否する場合は到底中等學校の學習に堪へずと認めらるゝ者に限ること

一、人物考査は常識素質性行等に付口頭試問の方法に依りこれを行ひ必要ある場合に於ては筆記試問の方法を加ふるを得ること常識の考査は學校の敎科にき基暗記暗誦に流るゝことなく理解、推理等の能力を判定し得べき平易なる事項に付きこれを行ふこと

平消防組の 非常召集
平署と合同で

平消防組の秋季檢閱は荒井署長不在其の他事務多忙なため延期されて居たが來る十日から十五日の間に大々的に決行する事となつたが平署では平消防組員約百名と合併し非常召集の形式に依つて行ひ豫じめ火災の現場を假想して警鐘一點打を合つとして組員は現場に走せ參じ防火準備を備へ用意たさ〜怠り無き有樣である一方署員は各々自個の仕務にしたがいて指揮指導をなす手はず尙同五日間に電檢査を行ふと

植田道普請
小濱で工費を寄附

植田町小學校前より小濱に通ずる道路は同町會の決議を經て八千二百圓で落札した事は既報の如くであるが去る二日同工事起工式を行つたが此の道路は小濱植田にとつては大なる利益であるので小濱有志は此の工事に一千二百圓寄附する事に確定した

運動費寄附
大平町長が 勿來縣道實現

茨城縣下大演習の砌り高松宮殿下には勿來關跡に御臨幸遊ばされた事は既報の如くであるが其際勿來町長大平陸四郞氏は登山道路を御案內申し上げいたく其の惡道路なる事を悔ひ後町會を開き縣道編入に議大ひに高まり縣當局に運動中の旨既報したが大平町長は此の目的貫徹の爲め十一月より來年三月迄の町長手當給料全額を縣道編入運動費中に寄附し目的貫徹に努めることとなつた

敷金を全廢して 家賃三割値下
社民黨が中心となつて 平地方猛運動

平町地方に於ける家賃値下げ問題は石城社民黨が中心となり具体的運動方法に着手したが其の後の經過を聞くと依然家主連の强硬な態度によつて

容易に解決すべくもないので

社會民衆黨平支部では卅日午後三時から平町の支部所內に於いて臨時執行委員會を開催し既に同支部の名に依つて發表した聲明書にもとづいて町並に郡內主要町村に於ける借地借家人に對する一般戶數別調査の經過を報告し協議の結果當地方に於る借地借家料の三割値下敷金制度の全廢、失業期間の家賃三ケ月後猶豫等の即時斷行を決議し直ちに郡內地主家主連に向つて交涉を開始すると共に來る八日頃平町聚樂館に於いて第一回借地借家人

大會を開

催初志の貫徹に向つて邁進する事となつたが同支部の主體となつた家賃値下問題がどの程度まで成功するかは將來石城地方に於ける無産運動の消長にも重大な影響を齎すものとして成行きを注目されてゐる

平町議失格 訴訟提起
手續き完了

平町々會議員坂本隆三、綠川喜三郞兩氏の失格問題に對して伏見平町長は過日の町會に於て町會の權威保持のため行政訴訟を提起し最後まで爭ふことゝなつたが右問題に對し町當局の諸準備も完了したので二日東京行政裁判所に書面を以て右手續きを取つた

淺野翁一肌拔き 小名濱商港を三年で完成
現內閣の無誠意に呆れ 小名濱人氣回復

石城郡小名濱町では卅年熱望の商港實現したものゝ當分年五萬圓の目くされ金では何等の用をなさぬので促進策協議の結果うみの親たる淺野總一郞翁の袖にすがつた處翁も築港に要する鐵材、セメント類を一切引受け政府に用立することの快諾を得たので近く代表者上京內務省の諒解を求むる筈であるが、內務省で許可すれば今後七八ケ年を要する同事業も三、四年で完成す

經濟講演會
十五日に開催

平町に於ける商業會議所の前提とも見られてゐる平商工會は創立以來磐城炭礦の糧食問題或はその他の商工業問題に種々活躍して非常な成績を納め一般から少なからず將來を期待されてゐるが同會では會の向上發展並に會の趣旨を一般に徹底せしむるため來る十五日ころ東京より一流經濟學者を招ぎ講演會を開くと

國債金獻金
大浦校の兒童が

石城郡大浦小學校では過般兒童試作農産物品評會を開催してこれを賣却し收入金十五圓を得たのでこれを國債償還資金の一部に充當するため二日小柳知事に願出た

私の戀愛觀（三）

城山 宮古清三

ダヌンチオの『フランチエスカ』といふ戲曲も三角戀愛を扱つたものゝ、兄ジヨンニーの妻フランチエスカを弟のパウルが戀する。兄のジヨバンニーはこれに氣づき自分はこれから出陣するからと云つて家を出かける振りをして、二人の樣子を伺つてゐると、果してパウルとフランチエスカとが目に餘る行爲に及ぶので怒りの餘り遂に二人を殺すのであるが、この戲曲に於ける作者の意圖は宗教や法律によつて決定した結婚が如何に空虛であるかといふことをいはんとしたのである。

現代英國の戲曲家ジヨンアーヴイングに中産階級の三角的戀愛を扱つたものがあるが、それにはすこしのロマンチツクな色彩もなく、非常に冷靜な理智的なものである。それは平和な會社員夫婦の生活であるが實直な夫に戀人が出來て、彼は妻子を捨てる口實として一人でアメリカへ渡るといひ出す、妻君も最早夫の心が自分から離れてゐるのを知つてあきらめを持ち、自分と子供達の生活を何うかして築き上げて行くためにいろ〜頭を惱ましてゐる、家を明けた夫が、明日アメリカへ出帆するから今晩はこゝで泊つて行くといふと、妻はアメリカへ明日發つのならば今晩泊らない方が都合がよいではないかと追出さうとする。夫はそれでは最後だから接吻だけ許してくれと近寄らうとすると、あなたは私を捨てゝ行くのだから今更接吻でもないではないかと拒絕して遂に彼を家の外へ出してしまふ。而も彼女は單に嫉妬やヒステリーからかうした態度に出るのではなくして最早離れた夫に執着を持つても何にもならないと悟つてかうした態度に出てゐるのである。三角關係もその中の一人がかうした態度に出ればそれで解決着く譯で歐洲大戰前に於ける三角關係は、大抵その最後が死を以て終つてゐたのに對してかうした理智的解決に達したといふことは、見逃すことの出來ない大きな傾向である。

近代文學には、以上述べたやうに三角關係を扱つたものが非常に多いと共に、また地方夫婦同志の無理解のために起る悲劇を描いたものも相當にある。先にあげたイブセンの『人形の家』は夫婦生活の無理解を描いたと同時に、その無理解な夫婦生活の過程において主人公のノラといふ女が次第に女としての自覺に到達して遂に家出するに至るのである、この『人形の家』の中に描かれてゐるやうな夫婦生活は、單に吾々の舞臺の上において見るのみならず今日と雖も吾々の周圍に多く見出す所の夫婦生活の一例である。ノラの如く一個の人間としての自由を得るために、夫や子供をまで捨てゝ家出することは、封建的な道德や因習に囚はれてゐる人々には、非常な不道德なことのやうに考へられるかも知れないが、一方から考へると、女だから何んな不合理でも屈辱でも忍ばねばならぬといふやうな屬は、最近の如き時代には許されないことである。

今日は總ての點において自由が叫ばれ、平等の思想が主張される時代である。女と雖も最早昔の奴隸的屈辱に甘んずる時代ではないノラの態度は保守的な人々には如何にも過激に見ゆるかも知れない然し、人々は夫を捨て、子供を捨て行くノラの家出を責める前に、先づ彼女をしてかゝる態度を執らしめた夫ヘルマンの妻に對する無理解を責めねばならぬ、近代人としての吾々の結婚乃至夫婦生活に對する態度は、それが相當において理解と責任を持つた上での愛の生活でなければならない、妻に對して一個の人間としての理解を持たない夫の愛は、それが如何に熱烈な愛であるとしても、自覺した女性にとつては却て堪へ難い苦痛となり遂にその結婚は破綻に落ちて行くにきまつてゐる。

平町人事

△婚緣

久保町北鄕藤吾氏次男七三郞（二九）妻德田平吉次女ツネ（二三）

平町揚土臺上坂武子（一九）夫草野村片寄留治郞四男安義（二五）

痔の最高內服藥 ダイサン錠
鼻のクスリ チクノール錠
平町五丁目角
山野邊藥局

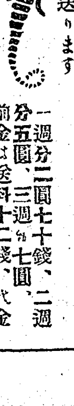
平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

淋病と御婦人のせうかちには 是非この藥が必要

殊に、慢性の淋病、せうかちで此藥に氣付かねば一生涯惱まなければなりません、こゝに角一週間飲めば眞價が判ります

注意、藥は三週間迄ありますが意外に早く治る方がある故、最初は先づ一週分で結果を見る事が必要です。

峰岸淋丹は一般賣藥と異なり家傳の秘法を嚴守して調製する當家の專賣藥なれば、希望者は本家へ來訪あれ遠方の方は前金なり代金引換なり御都合のよい便で申込み何品か判らぬ樣密封小包でスグ送ります



一週分二圓七十錢、二週分五圓、三週分七圓、前金は送料十二錢、代金引換は三十錢

東京峰岸淋丹 縣下一手頒布所、
平町南町火の見下
電四三九番

貸地廣告

平町郡役所より稅務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絕對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします

御希望の方は電話なり報けば社員が伺ひして親しく御相談に應じます

小名濱商事株式會社
平出張所
電話 六〇三番 五四一番

平町田町
高久病院
電話五一三番
內科小兒科
外科花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

內科、小兒科 市原
外科一般、婦人科 市原
外科、梅毒、淋疾 皮膚病 市原
平町田町本通
市原醫院
（入院隨時）